

平成28年度科学技術重要施策
アクションプラン(AP)【防・文04】
災害に強いまちづくりのための海溝型地震・津波
等に関する総合調査
御説明資料

文部科学省
平成28年4月4日

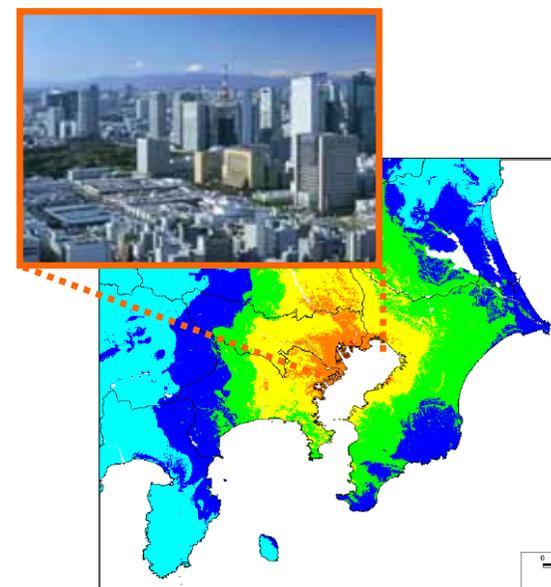
災害に強いまちづくりのための海溝型地震・津波等に関する総合調査

施策の概要

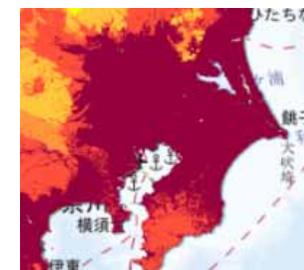
切迫性や被害規模が大きいと想定される地域やこれまで調査がほとんどされていない地域における観測調査を行い、自治体の地震・津波被害想定等の防災・減災対策等への貢献を行うための取り組みを行う。また、首都圏での大地震の発生が懸念されている中、地震の揺れと災害の予測及び建物・都市の安全と機能の確保のための調査研究を実施するとともに、ワークショップや地域報告会を通して、都市や地域の防災対策への貢献を目指す。さらに、大規模災害が起きた際に被害を最小化し、早期回復を図るための研究開発を行う。

H27年度の進捗

計画	進捗
必要な観測データ等を収集し、震源断層モデルや波源モデルについて検討を進める	収集したデータを活用して、震源モデル・波源モデルの構築に着手するとともに、地殻構造調査や津波履歴調査等により必要な観測データ等の収集を引き続き行っていく。
地震発生過程の解明や地震被害評価技術の開発、大型震動実験台等による検証等の実施及びワークショップや地域報告会を通して、都市や地域の防災対策へ貢献する。	地震発生過程の解明や地震被害評価技術の開発、大型震動実験台等による検証等の実施及びワークショップや地域報告会を実施している。
社会の回復力向上への貢献に向けた技術開発を行う。	社会に関する災害リスク情報(地震・火山・風水害等の自然災害情報や地盤情報)等の共有化を進める。それらを地域で利活用するシステム・手法について実証実験等を通じて高度化を行っていく。



都心南部直下地震(フィリピン海プレート内)で想定される震度分布



地震ハザード・リスク評価

災害に強いまちづくりのための海溝型地震・津波等に関する総合調査

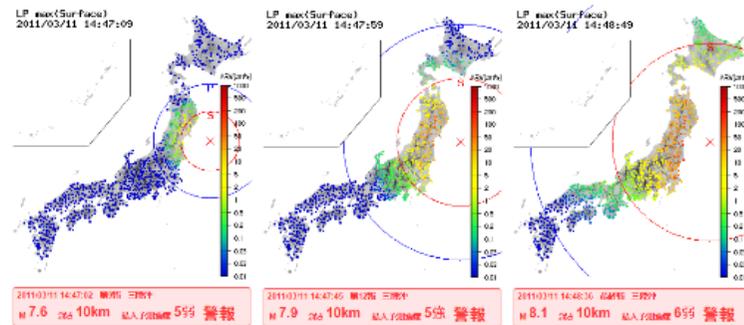
H28年度の計画

計画

引続き、収集したデータを活用して、震源モデル・波源モデルの構築に着手するとともに、地殻構造調査や津波履歴調査等により必要な観測データ等の収集を引き続き行っていく予定である。

引続き、地震発生過程の解明や地震被害評価技術の開発、大型震動実験台等による検証等の実施及びワークショップや地域報告会を実施する。

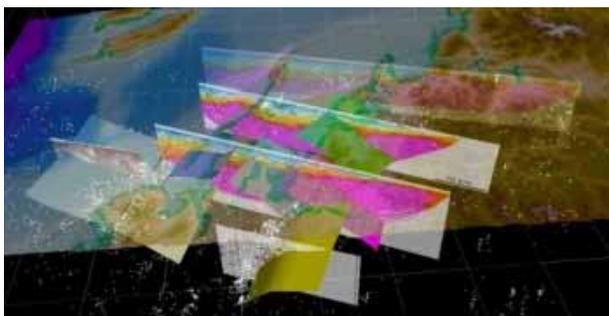
引続き、社会に関する災害リスク情報(地震・火山・風水害等の自然災害情報や地盤情報)等の共有化を進める。更にそれらを地域で利活用するシステム・手法について実証実験等を通じて高度化し、社会実装へ繋げていく。



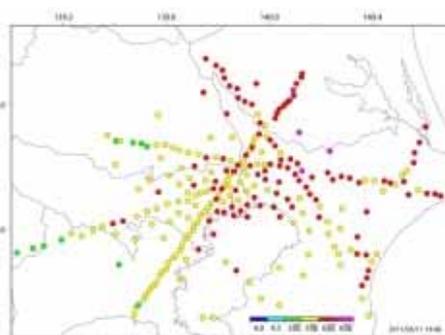
新しい即時地震動予測技術の開発



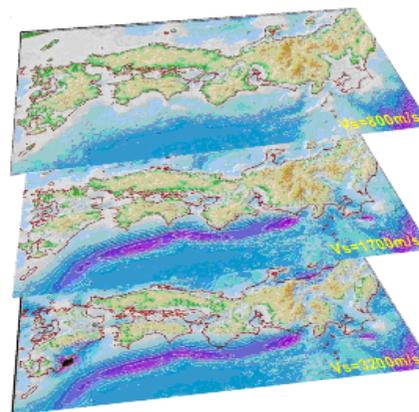
津波石調査



海陸統合探査によって得られた新潟地域の震源断層モデル



MeSO-net観測



津波・地震動シミュレーション研究

